

2009年 京都教区平和旬間メッセージ

『貧困と闘い、平和を築く』

京都司教 パウロ大塚喜直

ベネディクト 16 世教皇は今年の平和メッセージで、平和に悪い影響を与える世界の貧困問題に目を向けるように呼びかけておられます。貧困はしばしば武力衝突を含めた紛争を引き起こし増大させ、また長引く紛争がさらに悲惨な貧困の状況を悪化させます。人間が作り出す極度の貧困は人間が尊厳をもって生きることを阻む要因であり、これを見過ごすことは良心に反することです。そして物質的な貧困が道徳的・精神的貧困を招きます。経済のみのグローバル化が進む現代、貧困と闘うことは世界の安定した平和を築くために不可欠なことです。

世界規模の不況の嵐で昨年からは日本でも多くの業界で派遣切りが行われ、数万人の人が失業し住む場所も失う、そんな深刻な状況が全国で広がっています。特に外国人労働者の状況は深刻です。あちこちで、このような人々への支援が行政とともにボランティア活動によって展開されています。

日本司教協議会もカリタスジャパンを通じて「いのちを守る緊急募金」を呼びかけています。

私たちはこんなときだからこそ、互いに支え合い、励まし合う人間の絆がいかに大切かを痛感します。困窮している人々には物質的な援助だけでなく、あたたかい心の応援が必要です。人間の心につのる孤独と不安が、生きる喜びを奪い、生きる力を妨げます。

私たちキリスト者は貧しく弱い立場に追いやられ、大切な人間関係を断たれてしまっている人々、人間らしい生活が損なわれ、あるいは妨げられている人々の側に立って、この世界を見ていかなければなりません*。これが貧困と闘う出発点です。

今日のミサで、私たちが貧困を余儀なくされている人々と人類家族として連帯し、世界平和のために福音の精神に従って、すべての人の尊厳と人間らしく生きる不可侵の諸権利を守っていく決意を新たにしましょう。

* 2008年12月、世界人権宣言発布60周年にあたっての日本司教団のメッセージ、『すべての人の人権を大切に』参照。